



JICAブースは終日、国際協力に関心のある人でぎわった

2日目のフィナーレには、メインステージで「なんとかしなきや！プロジェクト」の著名人メンバーでもある医師の桑山紀彦さんが「地球のステージ なんとかしなきや！版」を開催。桑山さんが制作したプロジェクトのテーマソング「世界の片隅からうなづかしながら 55億人」が初披露されました。また、プロジェクトのブースでは、趣旨に賛同し新たにサポート登録をする人の姿も多く見られました。

## 「グローバルフェスタJAPAN 2010」開催

01

10月2・3日、東京・日比谷公園で「グローバルフェスタJAPAN 2010」(外務省、JICA、国際協力NGOセンター共催)が開かれました。今年で20回目を迎える国内最大級の国際協力の祭典に、2日間で史上最多の10万5000人が来場。「MDGs、それは私たちの『約束』」をテーマに、国際協力に携わる団体や企業などがさまざまな企画を行いました。

JICAもイベントステージやブースを通じて参加。ミレニアム開発目標(MDGs)関連の活動紹介やJICAボランティアなどのキャリア相談、JICA研修員や青年海外協力隊OBのトークショーなど多彩なプログラムを提供し、多くの来場者が関心を寄せしていました。

2日目のフィナーレには、メインステージで「なんとかしなきや！プロジェクト」の著名人メンバーでもある医師の桑山紀彦さんが「地球のステージ なんとかしなきや！版」を開催。桑山さんが制作したプロジェクトのテーマソング「世界の片隅からうなづかしながら 55億人」が初披露されました。また、プロジェクトのブースでは、趣旨に賛同し新たにサポート登録をする人の姿も多く見られました。

## 世界が一丸となり国際協力について考える

02

9月20～22日、ヒマラヤで「ミレニアム開発目標(MDGs)国連首脳会合」が開催されました。約140カ国の代表者により、2015年の目標年を前に各目標の達成状況についてレビューが行われ、今後5年間で優先すべき課題の方向性が話し合われました。また小寺清JICA理事が、保健分野の人材育成、アジアのMDGs達成状況をテーマにしたサイドイベントにパネリストとして参加。JICAのこれまでの活動事例を紹介し、「人間の安全保障を理念に、より一層の努力を払っていく」と訴えました。

また10月8日には、ワシントンD.C.で行われた「IMF・世界銀行年次総会」に緒方貞子JICA理事長が出席。2008年の金融危機以降、世界的に続いている不況への対応策に加え、世界経済のけん引役としての新興国への期待などが議論されました。さらに緒方理事長は、会合に出席した口バート・ゼーリック世界銀行総裁やラジブ・シャー米国際開発庁長官と会談。そのほかにも、ドナルド・カベルカアフリカ開発銀行総裁とは、南部スチーダンやソマリアの情勢について、パキスタンのアブドゥル・ハフィーズ・シェイフ財務大臣とは、今夏の洪水被害への対応などを協議しました。緒方理事長は「今後も各国の援助関係者との情報交換を継続的に行い、連携にも力を入れていきたい」と述べています。

04

## 「世界の笑顔のために」プログラム 途上国に贈る物品を募集中

「世界の笑顔のために」プログラムは、開発途上国で必要とされている物品(教育、福祉、スポーツ、文化などの分野で使用されるもの)を日本で募集し、JICAボランティアを通じて、世界各地に届けるプログラムです。なお、発送元から指定倉庫(東京都内)までの送料は、物

品提供者の負担となります。募集期間：11月30日(火)まで

問：JICA青年海外協力隊事務局「世界の笑顔のために」プログラム係

Eメール：jicajv-egao@jica.go.jp

URL：http://www.jica.go.jp/partner/smile/

03

## パキスタンに医療チームを派遣 国際緊急援助隊



7月下旬から降り続いた大雨の影響により甚大な洪水被害に見舞われたパキスタンに対して、JICAは9月に国際緊急援助隊の医療チームを派遣しました。現地では、インダス川を中心に広範囲でインフラが壊滅。被災者は衛生状況の悪化により安全な水を得ることができず、感染症が拡大していました。

今回、JICAは医療チームを2次にわたって派遣。9月5～22日にかけて、中部のパンジヤブ州ムルターン周辺で医療活動を行いました。診療所には1日200人を超える患者が訪れ、下痢や発熱、マラリアの発症などいました。

今回、JICAは医療チームを2次にわたって派遣。9月5～22日にかけて、中部のパンジヤブ州ムルターン周辺で医療活動を行いました。診療所には1日200人を超える患者が訪れ、下痢や発熱、マラリアの発症などを訴えました。連日40度を超える酷暑の中で隊員たちは懸命に活動を行い、1、2次隊合わせて延べ3501人を診察。早期復興に向けて、JICAは今後も継続的な支援を行っていく方針です。